

### この時期の発達過程

いよいよ2歳に突入ですね。おめでとうございます！この時期のお子さんは、自分の身体を動かすということや、どう動かせばよいのかという事に非常に強い興味を抱いている時期です。走り回る事も増え、段差のあるところからピョンっと降りたり、ジャンプやぶら下がったりなど、活発にたくさん動くようになります。大人から見るとハラハラしてしまう場面もあるかもしれませんが、安全面に配慮をしながら、思う存分に身体を動かす事を保障してあげられると良いですね。手の操作が巧みになり、自分で食べ物をスプーンですくって食べるという事も少しずつ上手になってきます。まだ上手くすくえなくて食べこぼしが多いと、大人が代わりに食べさせたくてしまうところですが、子どもは自分で食べながら上手になっていきます。見守りながら自分で食べたい意欲を大事に育ててあげましょう。乾燥豆などを容器から容器にスプーンですくって移すというような活動を取り入れ、遊びの中で練習をさせてあげるという方法もあります。食べ物をポロポロこぼされるのは大変でも、乾燥豆ならストレスも少ないですね。言葉も増えてきます。2歳前後には短期的に単語が爆発的に増える「単語の爆発期」が訪れ、「ワンワン いた」「バナナ あった」など、2語文を話し出すお子さんもいるでしょう。

また、「ちょうだい」「もういっかい」など、要求を表す言葉や、「おしまい」「いらない」など、意思表示をする言葉も話せるようになっていきます。はっきり意思表示が出来るようになってくると、何にでも「いや！」と言われてしまうこともあり、扱いにくいと感じる事もあるかもしれませんが、否定せず小さな自我を受け止めながら、子どもが自分を自由に表現することを保障してあげましょう。

### この時期のお悩み

自分の要求が通らなかつたり思い通りにならないことがあると、泣き叫んで暴れるといった、かんしゃくが始まり悩んでしまう親御さんもいらっしゃるかもしれません。かんしゃくは心が成長し、自分の自我をはっきり出せるようになってきたという成長の証でもあります。渦中にお母さんたちはこれに付き合っていると本当に疲れてしまいますよね。親としてはどんな関りをしていったら良いのでしょうか。

この時期のお子さんは、「自分でやりたい」とか「こうしたい」という意欲や要求は強いものの、まだ思ったようにうまく出来なかつたり、自分の気持ちをうまく言葉で伝えるのが難しく、そんなジレンマがかんしゃくとなって現れてしまうという事もあるでしょう。また、自分で感情のコントロールをする事もまだまだ難しい年齢。そんな時は、「これがやりたかったのね」「嫌だったね」など、お子さんの言葉にならない思いを汲み取って代弁しながら共感したり、気持ちを受け止めてあげることで落ち着くこともあります。信頼出来る大人が「自分をまるごと受け止めてくれた」そんな安心感や信頼感が、自ら目の前の壁を乗り越えようとする力になります。しかし、癇癪を起こすからといって何でも子どもの言いなりになってしまうのはよくありません。例えば、お菓子を買って欲しくて泣き叫ぶ子どもに根負けしてお菓子を買ってしまったら、子どもは「こうやって騒げばお菓子を買ってもらえるんだ」ということを学んでしまいます。気持ちには共感受け止めながらも「それは出来ないよ」と要求には応じられないということを毅然とした態度で示していく事が大切です。かんしゃくを起こされると親の方は何とか落ち着かせなければ！と焦ってしまいがちなのですが、子どもにとってはそのようにエネルギーを放電する時間も大切な時間で、子どもは大泣きしながらも、自分の「こうしたいという欲求」と「思い通りにならない現実」との間で葛藤をしながら、自分で気持ちに折り合いをつけることや、感情をコントロールする事なども学んでいます。公共の場など、騒いだら良くない場面をのぞいては、自由に泣けるという時間も保障してあげましょう。また、いつもかんしゃくを起こすパターンが決まっているなら、あらかじめ事前のお約束をしておくというもおすすめです。例えば、お菓子を買ってほしくてスーパーでいつも騒がれるなら、買い物に行く前に「今日はお菓子は買わないよ」と約束しておく。事前予告である程度心の準備が出来るのでお子さんの方も余裕が生まれるでしょう。

### 井上エリ

子どもの心の根っこを育むcocorone主催。アドラー心理学とモンテッソーリ教育を活かした子育て講座をオンラインで開催中。また、自身の保育士経験も活かしながら保育士向けの研修も行っている。アドラー勇気づけ講師、モンテッソーリ教師、8歳と1歳の女の子と男の子のママ。インスタグラム、ブログも更新中。



保育園がつくる  
子育てサブスクリプション

パッケージ紹介

1

## ベビークーゲルバーン小 (ハバ社)

「いつか子どもにさせてあげたい！」という声が非常に多い玉ころがしのコース作り。けど、対象年齢は？となると実は4歳以上になってから出会っても遅くないくらいの高難度な遊びです。つまり、購入するならその高難度に展開できる玩具で投資する方が得るものも大きいですし、小学生になっても使えるのです。そこまで待つのか〜( ^\_^A と、言いたくなりますね。サブスクの良さがここに有り！この月齢で楽しめる誤飲のない玉のサイズ（ベビークーゲルバーンの木玉は直径5cm）2才の子は「長く」つなげることが大好き。あとは少し大人がサポートしてあげて、スタートからゴールで、玉の道作りの初めの一步を体験できるのです。まで！フィニッシュにベルの音が鳴ると気分爽快です！空間認知力や手指の微調整力は自然と育まれることでしょ。



2

## スライドカラー (セレクト社)

パッと目を引くカラフルなこれは、いったいなあに……？ テントウムシ？ それとも花？ 実はこれ、指先を使ってノブをスライドさせるおもちゃなのです。

このころの月齢の子どもは、指先をじょうずに使えるようになってくるので、つまんだり引っ張ったりすることにもう夢中！カラフルなノブをつまんでクルクル回したり、溝に沿ってスライドさせたり。そのうち、色を合わせてあそぶようになったら、これをあっちへ、あれをこっちへ。裏面にはカラフルなイラストが描かれていて、表の色をそろえて裏返しても裏のイラストはそろっていないので、何度でもくり返しあそびたくなりますよ。



3

## トロムメール (アウリス社)

内側を打棒でくるくる回して音を出す、他にはない楽しい楽器です。カラコロ♪カラコロ♪カラコロロ・、カバ材独特の軽快な音が響きます。耳に優しく心地よい音色が、自分の働きかけで奏でられるのはとても楽しいものですね。自然界の陽気な音に、ノリノリで身体を揺らす子どもの笑顔に大人がとろけてしまいます。力の入れ方、速さで変化が楽しめます。音階はありません。

(注：打棒を口にくわえたり、持ち歩いたりしないよう必ず大人と一緒に遊んでください)



4

## ステップパズルねこ (ジョージラックパズル社)

5層のパズルです。5枚をめくるように全部出して、並べてみて、はめ込み始めると・・・1層目、2層目・・・じっと見ていると3層目は飛ばして4層目、5層目、と入れます。そこでようやく「あれ？残ってるのが有る」と気づいて・・・問題解決能力を引き出すパズルです。色を比べる、大きさを比べるなど、幼児期に大切な遊びが詰まっています。

<ジョージラックパズルについて>

イギリスのジョージラック夫妻が自分の子ども達を楽しませようと作り始めたパズルが評判となり、1975年に会社を設立。以来、イギリスのグッドトイ賞やおもちゃライブラリー推進玩具金賞を受賞しています。



5

## ジオマッチングブロック (プラントイ社)

三角、四角、楕円・・・5つの形のブロックが中身と外側でセットになったおもちゃです。2才頃は「ぴったり」と納まるのが大好き！「揃える」ことにこだわるくらいのお年頃です。なので、ピッタリと納まる相棒を見つけると大満足。円と楕円、正方形と長方形など、似たようなブロックを見分けるのはちょっと難しいかもしれません。はじめはブロックの数を少なくするなど、難易度を下げてあげるといいでしょう。パパやママが「卵みたいな丸だね」「四角だけど細長いねえ」など、言葉を添えてあげると、より理解が深まりますね。



絵本

## わらべうたであそびましょ！

たあちゃんが鏡の前であそんでいると、ふしぎなともだちがどんどんやってきて……

子どもたちが大好きなわらべうたが、楽しい絵本になりました。絵本をなぞりながら歌うもよし、絵本は置いて手遊びしながらやるもよし。

子どもと一緒に遊んであげてください。

\*あがりめさがりめ \*だるまさんだるまさん \*いっぽんぼし \*げんこつやまのためぎさん \*なべなべ \*かごめかごめ \*さよならあんころもち 全7編収録



絵本

## よんで よんで

子どもは絵本を読んでもらうのが大好き。

でも、忙しい大人は、なかなかゆっくりと絵本を読む時間が作れないこともあります。

そんな日常のひとこまをベースに、動物たちに絵本を読んでもらうという、ユニークな発想で生まれた作品です。

「よんで よんで」と頼まれた動物たちの、一生懸命な姿と、耳に残る読み聞かせの声。

動物たちの声色を想像しながら、子どもに読んであげたい一冊です。



うた

## わらべうた

YouTube このトイChで紹介しております。

QRコードからご確認ください。

